

## < 保険積立金 ~ Y 評点は「自己資本」が大切 ~ >

経営者の皆さん、自分の会社の自己資本（注）が直前決算期でいくらか知っていますか。だいたいの金額は知っていてもあまり意識せずに経営しているのではないのでしょうか。しかし、「経審」で点数を上げるには、この自己資本の大きさが大切なのです。自己資本の大きい会社は、その分固定資産を多く持っても点数を下げないでいられます。しかし、自己資本の小さい会社は、多くの固定資産を持つことができないのです。小さな自己資本に合わせて資産を保有しない心構えが必要なのです。多くの経営者はその心構えができていません。

その例として、保険積立金を取り上げてみましょう。会社では、経営者を被保険者として生命保険に入ることがあります。経営者に万が一のことがあった場合に、会社が資金的に困らないようにすることと経営者の退職金を準備しようというのがだいたいの目的なので、この保険は、通常、会社を受取人にしています。保険のタイプとしては、養老保険、終身保険、定期保険などがあります。預金をする感覚で退職資金を積み立て、同時に保障もある終身保険タイプや節税しながら退職資金を準備する長期平準定期保険、逓増定期保険、定期付終身保険など様々な商品が保険会社から販売されています。また、役員従業員全員を対象に、

満期保険金受取人を会社にし、死亡保険金受取人を従業員の遺族にした養老保険に加入する例もあります。これらの保険は、企業のリスク管理の面で大切なことは分かります。また、税金対策になる場合もないとは言えません。しかし、自分の身の程を考えるべきです。保険で積み立てた部分は、保険積立金として、固定資産の部に計上されます。（図1）

もし、借入金がある会社であれば、実質、借金をして貯金をしているようなものです。固定資産の増加、借入金の増加は、「経審」で確実に点数を下げます。解約返戻金が保険積立金の帳簿価額を上回り含み益が発生するとしても、そのことは、表面上、自己資本を減らすことになり、「経審」上不利になるのです。そして、費用となった保険料は、利益が出て、利益を圧縮する役目を担ううちはよいのですが、利益が出ずに、利益を圧迫する役割を果たすようになっては大変です。自分の会社にこれに耐えられるだけの財務体質と利益があるのかよく考えてみましょう。

建設需要が落ち込む中で、建設会社同士の厳しい生き残りをかけた戦いが展開されています。その中で、「経審」の点数を下げずに乗り切らなければならないのです。十年二十年先のことを考えるよりも目の前のことを考えて行動することが大切ではないでしょうか。

WISENET編集部 松村 清（税理士）

（注）この場合の自己資本は貸借対照表の資本合計の金額です。「経審」における自己資本（基準決算（直前決算）における資本合計の金額から利益処分において株主配当金、役員賞与金等として社外流出にした金額を控除した金額）とは違います。

（図1）

貸借対照表

流動資産	資金の運用	負債	資金の調達
固定資産 保険積立金		資本 (自己資本)	

損益計算書

営業損益  
 (1) 売上高  
 (2) 売上原価  
 売上総利益  
 (3) 販売費及び一般管理費  
 営業利益

保険料・・・・・・利益圧縮 ➡ 利益圧迫

**今後の入札では ISO 取得が鍵になる！！すでに15都府県では ISO 取得により入札主観点数加点を実施。各都道府県加点状況、ISO 取得についてお問い合わせ受付中！**

Wisdom 訪問デモ希望（無償）

Wisdom 資料請求（無償）

\*すでにご注文をいただいているお客様にもこの案内は届いています。

送信先宛名変更（右欄に変更後の宛名をご記入ください）

今後「Wise FAXNET」送信不要

デモ希望、資料請求、送信先宛名変更、送信停止は、必要事項をご記入の上、FAXにて当社までご返送下さい。

**FAX.0269-65-4745**

下記にご連絡先をご記入下さい。ユーザー様で前回登録時と変更のない場合には、貴社名と担当者名、TELのみをご記入下さい。

貴社名

ご担当者様

ご役職・部署名

TEL

FAX

今後メールでの送信をご希望される場合は下記にアドレスをご記入ください。  
e-mail